

福岡

福祉活動専門員の

ま な こ

社協活動前進のために

No.17

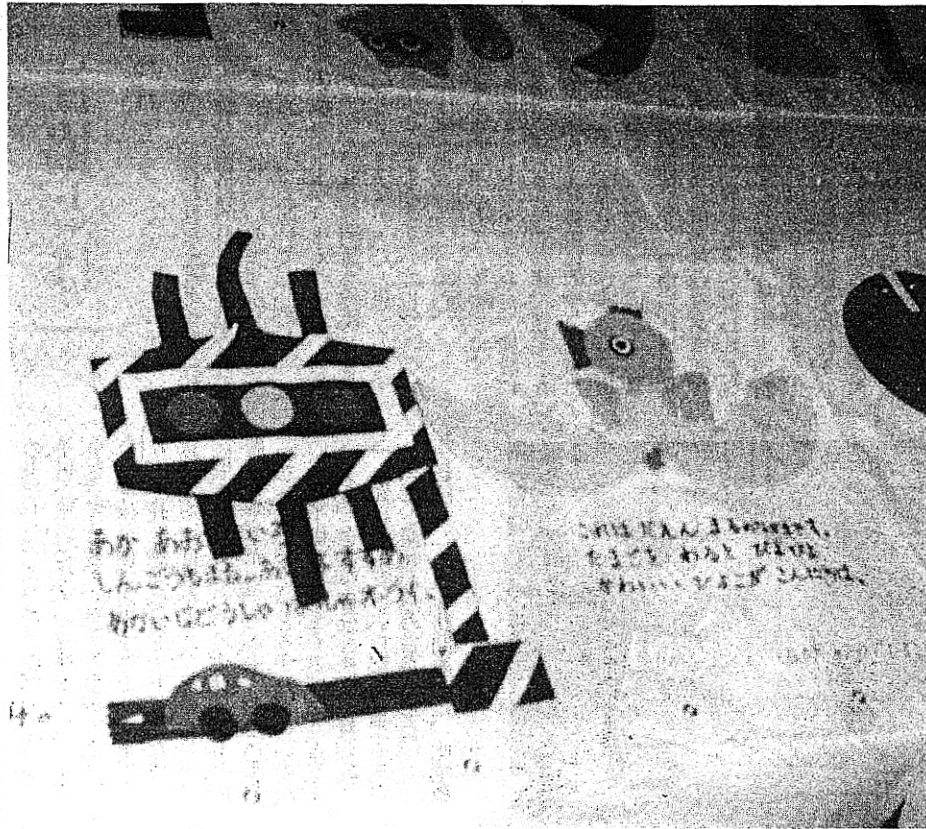
昭和58年3月発行

福岡県専門員連絡会

まなこ編集委員会

印刷

ひかり共同作業所



雪の筑豊で学んだ 専門員連絡会研修

二月十八日、今年はや暖冬というのに雪が降る中、専門員連絡会研修会が飯塚市、桂川町で開催された。雪のためか参加者が三十人と少なかった。

施設・地域・人の輪

今回はまれにみる研修で筑豊地区三ヶ所を回るといふもので、まず飯塚市のせき損センターに集合し熱心に見学する。この施設は患者の退院後の更生のために職業訓練施設や生活訓練施設を完備し医用工学研究室を置き障害者向けの住宅等の研究をしている。

つづいて飯塚市立岩公民館で開催中の飯塚市社協主催「いづか福祉文化展」を見学。障害者の力作やユニークなさわる絵本等が展示してあり、来場者の関心を集めていた。また飯塚市社協活動については掲示板や冊子等で報告し社会福祉への住民の理解が深まるよう十分配慮してあった。

最後に桂川町社協活動に学ぶと題し十一月二十三日に行なわれた「福祉のつどい」について報告を受け、問題点解決のため各町の例を参考に協議を行なった。

研修を通じて、各専門員は、障害者の「社会復帰の困難さ」を学ぶとともに、障害者が「地域で生きる」ことを支える人の輪をいかに広げていくべきかという、専門員としての在り方を鋭く問われました。

※写真は、「いづか福祉文化展」より、「さわれる絵本」である。

専門員とは、社協とは

在宅福祉の限界を問われて

新しい年とともに、厳しい社会状況の中でますます福祉の問題が深刻化・複雑化して、専門員として試行錯誤のくり返して心を痛めている今日この頃です。特に、障害者の在宅問題でその限界を問われた或る会議の様子を述べてみたいと思います。

それは、在宅障害者及び親の会等と県行政との請願交渉でした。障害者のかかえている多くの諸問題、例えば、教育・生活・雇用等の問題の解決を要求されていたが、特に在宅の重度障害者がかかえている親たちの声は悲痛な程の叫びでした。

これらの一つ一つを解決するには、多くの時間と経済的援助が必要である事は周知の事ですが、行政側の「今後検討します。予算がありませんので」の一点張りには、要求する方のいらだちは高まるばかりです。いつも見られる交渉風景ですが、その中で鋭先が社会福祉協議会に向けられ、ギョッとしました。ある人より、「社会福祉協議会とは何をされる所ですか？ 福祉活動専門員は何をする人ですか？」との質問があり、「私が地域の専門員さんに障害者(重度)の事を相談したら、重度障害者は治る見込みもないし、通園や作業所を設置するよりも施設に入所

しなさい。」と言われたそうです。「私の子は施設も受け入れてはくれないのに、どうしたらいいのですか？ 自分たちの悩みをもっと聞いてほしい！」と激しい怒りとも嘆きともつかない言葉でした。応答した専門員も、決してそんなつもりではなかったと思うのですが、言葉が足りずに意が通じていなかったのは残念でした。

私も一専門員として、その声は、ずしりと重くのしかかりました。施設に入所希望しても入所できず、在宅となり、重度の在宅障害者に対する施策には限界があり、充分でない事は、^(注)直方市の一例がよく物語っています。幸い直方市の例は、多くの地域住民の理解と努力により、市が計画案を進めているとの事で、何かホッと救われた気持ちがあります。これに至る迄の専門員の熱意と努力には敬意を表し、また、社協マンとしての使命感にうたれました。そして、少数者の声^(注)、この声を大切にしなければならぬ事を痛感しました。

ある夜の事、Aさんから電話を受けました。Aさんは、重度の障害児を施設にあずけてある方です。

お正月で帰宅したお子さんを施設に帰された後、どうにもやりきれないと

の事でした。さっそく訪問してみると子供が施設に帰るのを嫌がって、その事を、言葉もよく発する事ができないのに身体全体で表現するという事であり、それを無理に帰してしまつた後、お母さんは自らを責め、そのジレンマに悩まされていたのです。「手もとに置いてやりたい。しかし、対応に限界がある。いったいどうすればいいのかわからない。帰ってくる度に、どうする事もできない自分と社会に対して、いい知れぬ不安といらだちを覚えるのです。」と涙ながらの言葉でした。

励しながら私自身やり切れない気持ちで帰路につくのです。重度で常時介助を要する人が、施設ではなく地域の中で親元にいたいと願つても、在宅では大変な努力と人と金と安全の問題を解決しなければならぬのです。

「施設の機能や専門性を利用して、地域のネットワークづくりが充実されれば、在宅のままでも重度障害者が生活する事も可能なわけであるが、それには、施設の整備や配置というような条件が成されなければ、在宅福祉サービスマウまくいかない。」と言われた三浦先生の言葉が思いおこされ、ノーマライゼーションの理念は理解できて、具体的な諸条件を整備し、その展開を実践するにあたって、社協の役割の重さと、専門員としての活動の難しさを、あらためて思い知るのでした。

重度障害児をもつ母親が、「社協とは何をされる所ですか？ 専門員は何をする人ですか？」と問われた言葉を、そのまま、私自身に問われた事としてしっかり受け止め、これからも諸先輩の御指導を仰ぎながら、微力ながらも多くの人と協働し活動を推進する事ができればと思っています。

大野城市 河上 洋子

*^(注) 重度の在宅障害者に対する通園施設設置への運動展開を示している。現在、行政の厚い壁にぶつかっている模様である。



連 専 福 だ よ り

ブロック連絡会

両筑ブロックでは、十二月に社協職員とホームヘルパーを含んで全員の研修・懇親会を開きました。その他に専門員だけの連絡会が二回行なわれていますが、徐々に若い専門員が増えていますので、そろそろ内容を考えなおす必要がでてきているのではないのでしょうか。

筑豊ブロックにおいては、二カ月に一回の定例会を行ないました。また、今年度は、初めてのころみとして、四月に稲築町のセンターで、社協職員全部の研修・懇親会を開き、今後も続けていきたいとのことでした。

福岡ブロックでは、今年度は二回の

連絡会を開きました。いろいろとご批判もありましたが、もう少し回数を増やしてもよいのではないのでしょうか。最後に筑後ブロックでは、今年度の開催がなく、ブロックの会長にいろいろと文句をいってきているのではないのでしょうか。

それぞれのブロック連絡会で、悩みは多くありそうです。ブロックにしての連絡会にしては、社協によつては、出席できない人や出席しない人がありますが、社協の役割の一つには、情報収集と情報の提供があり、その収集をする場に活用できないことは、その社協のマイナスとなるのではないのでしょうか。

おめでとう

この編集委員への情報があまり入っていないので、洩れている人も多数あるかもしれませんが、あしからず、次の方々の結婚と出産がありました。

(結婚)

田主丸町 穴見 岩雄 十一月三日
大川市 永田 啓造 二月二七日
近ごろ専門員に若い人が入ってくるのが少なくなっている事もあり、この二人が結婚して、残りの未婚の専門員が非常に少なくなりました。「希少価値があるので、もう少し待ってどうかなア」...ある専門員

(出産)

赤池町 池田 晃...男の子
福岡町 志水 秀則...女の子

筑後市 中山 陽一...未定
この他にも何人か、予定があるらしいけれども、わからないことが多いので、以下は省略します。
みなさん、おめでとうございませう！
独身諸君、嘆かず頑張りなう。

専門員の動向

前号以後に次の専門員の交替がありましたので紹介します。

宇美町 宗 嘉則(退職)

森尾 昌二(新規)

今年度は、次の社協が法人になりましたが、これで、法人社協は六十一市町村となりました。

北野町 野瀬 光治

以上の方々をよろしくお願いいたします。

専門員連絡会から

今年度の会費は、どういうわけか早くも全市町村から送金がありました。ありがとうございます。

そして、会費には、関係ないけれども、連絡会の役員と編集委員の任期が終了します。みなさんご苦労さまでした。四月には改選しますので、それまでのお勤めです。しかし、みんな替るかな？

編集後記

今回で、この「まなこ」編集委員の任期が満了し、次回からは新しい編集委員になるということで、最後になって初めて六人の編集委員がそろいました。

この二年間いろいろと書きたいことや言いたいことなどがあつたけれども書けなかったことがありました。そこで、次期の編集委員に対して「贈る(送る)ことば」をあげます。

○編集委員の選任はもっと慎重にかつ厳正にお願いしたい。(連絡会に対して)
○原稿は役割分担のもとに、すみやかに提出することの確認をすること。

☆ 編集委員になられた方は、専門員の実態がすぐわかりますよ、皆んなで協力してガンバってください。

○年に二回の「まなこ」は全て、編集委員長様のおかげです。めんどくさいのが事実。だって、誰も原稿を寄せてくれんもん。次回もかくご！

まず自己反省ノ二回出て来て二回とも編集委員長の足を引っぱった。編集委員長ごめん！次回の編集委員さん足を引っぱるようだったら出て来ないで下さい。

。二年間なんとか「まなこ」編集委員を務めることができました。

原稿依頼の不手際等で紙面の内容が不十分だったことをお詫びするとともに、今後とも「まなこ」をよろしくお願ひ申し上げます。

